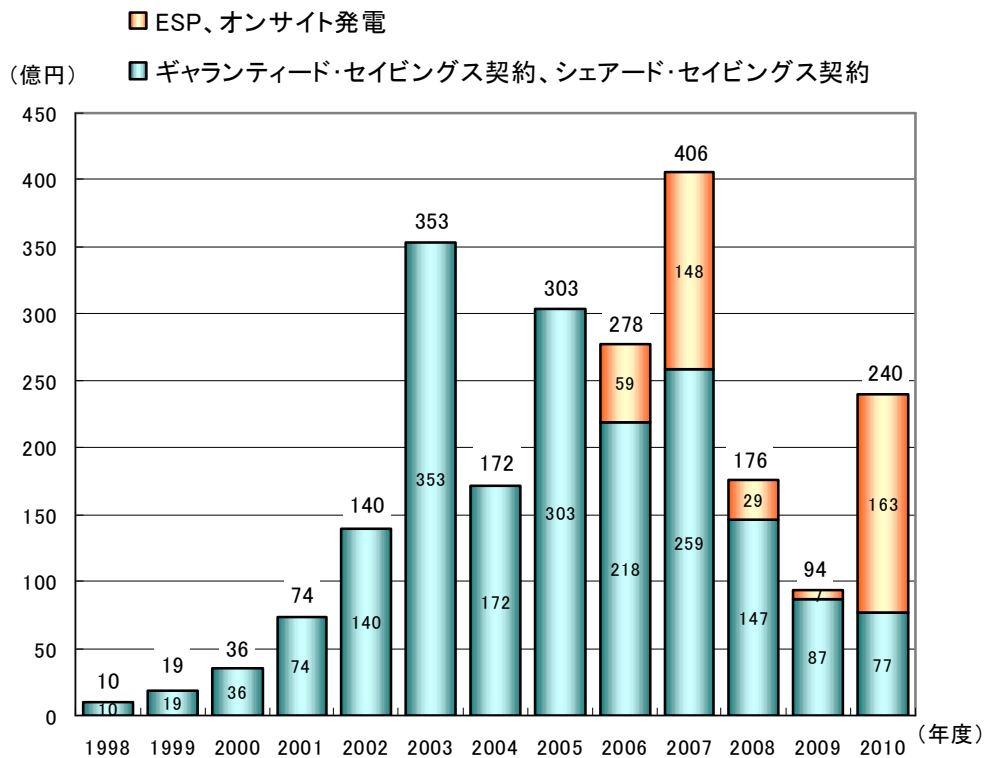


■ESCO 事業の市場規模の推移

ESCO 事業は導入当初から年々急成長し、2003 年度には市場規模も 350 億円に達します。2004 年度に一旦縮小しますがすぐに回復し 2007 年度には過去最大の 406 億円を記録しています。2008、2009 年度は経済の低迷により市場規模は大きく減衰し、2009 年度には 100 億円を割るまでに縮小しましたが、2010 年度は「ESP、オンサイト発電」が 163 億円と市場を引っ張り、全体で 240 億円まで回復しました。

なお、2006 年度調査からは ESCO のパフォーマンス契約に含まれていた「ESP、オンサイト発電」を別項目として調査集計しています。

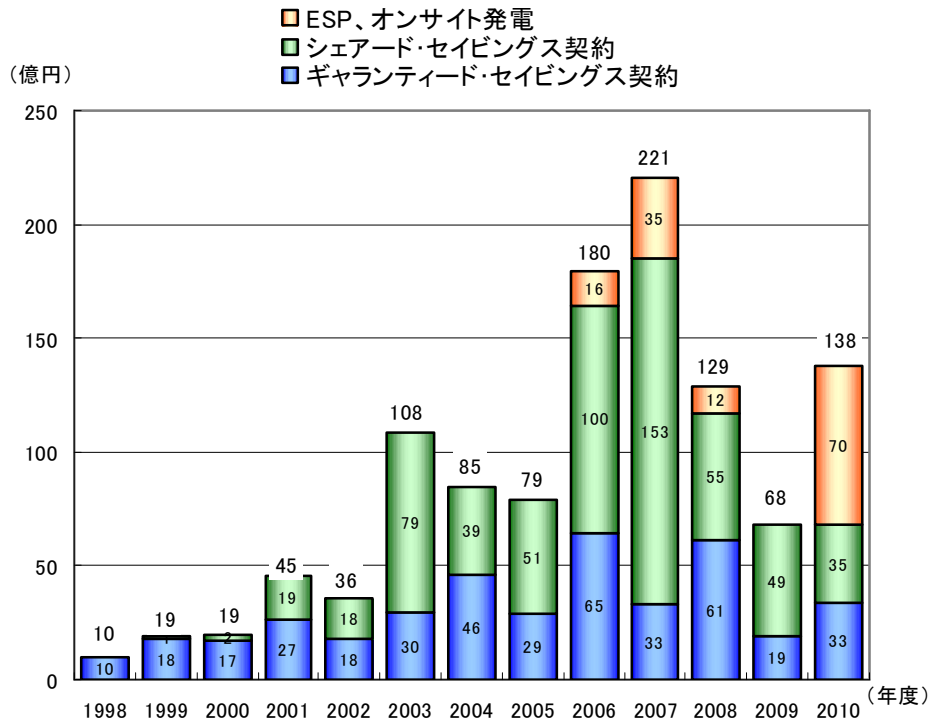


■ESCO 事業の契約別受注金額

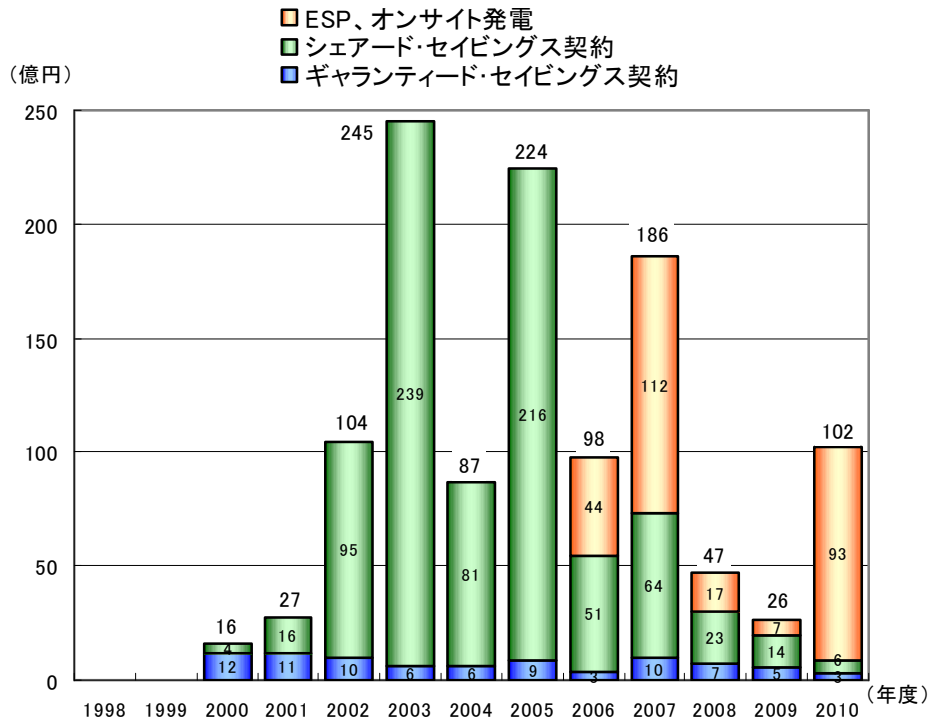
1996 年の ESCO 導入から、当初は業務用が最初に成長し、2002 年度には産業用が急成長、続く 2003 年度には両部門とも市場は大きく進展しました。以降、とくに産業用はギャランティード・セイビングス契約が比較的安定して推移する中、業務用、産業用ともシェアード・セイビングス契約や ESP、オンサイト発電の市場規模は増減を繰り返してきました。

2008 年度、2009 年度は景気の低迷を反映して大きく減退した ESCO 市場も、2010 年度は、業務用、産業用とも「ESP、オンサイト発電」が共に大きく躍進しそれぞれ 100 億円規模に回復しています。

業務用 ESCO 事業の契約別受注金額



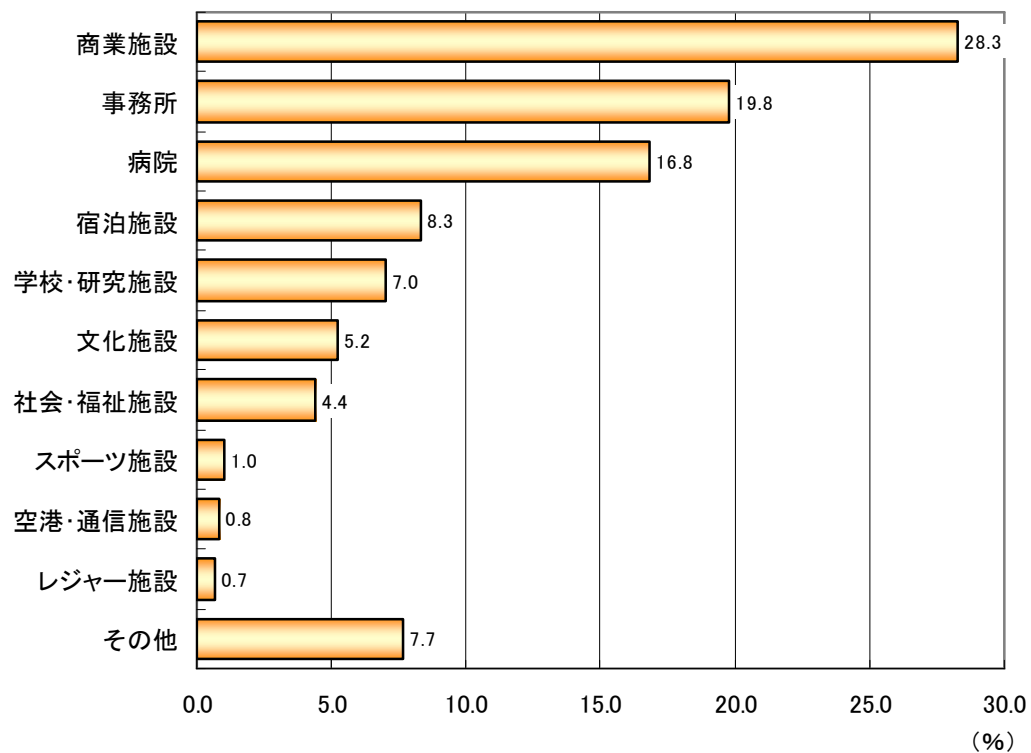
産業用 ESCO 事業の契約別受注金額



■ ESCO事業における対象施設

2001～2010年度に調査した10年間のESCO事業において、業務用として最も多かった対象施設は商業施設でした。(産業用においては、収集データの数が充分ではなく、正確な傾向を示すに至りませんでした。次年度以降、サンプル数を増やし傾向分析を行う予定です。)

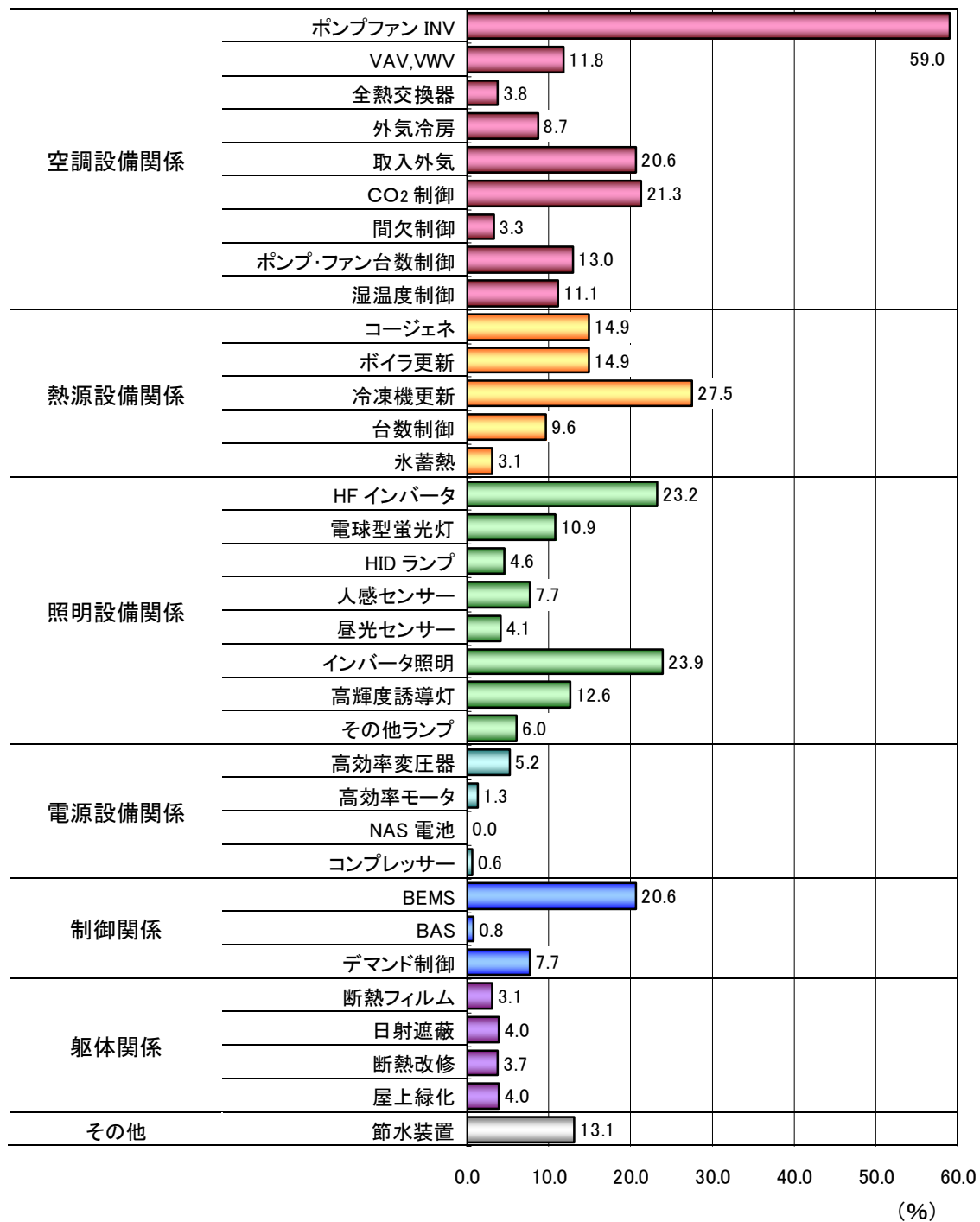
施設種類(業務用)



■採用されている省エネルギー技術

2001～2010 年度に調査した 10 年間の ESCO 物件において、採用されている省エネルギー技術については、業務用が空調設備関係、特に「ポンプファンの INV化」が、産業用は熱源設備関係、特にコージェネや冷凍機更新が最も多いものでした。

ESCO 事業で採用されている省エネ技術(業務用)



ESCO 事業で採用されている省エネルギー技術(産業用)

